

キノコ研修会報告

活動日：令和4年9月3日（土）

場 所：埼玉県民の森

参加者：西田、早川、藤井、鈴木、佐藤（永）、原、
関谷、土金、田崎、池田、高杉、本田（12名）

講 師：高杉 茂

報告者：鈴木翔貴



当日は雨による研修会の中止が心配されましたが、曇りのため無事に開催されました。芦ヶ久保果樹公園村から林道を車で15分程走ったところに埼玉県民の森駐車場が有り、駐車場から徒歩10分程の場所に集合場所の管理事務所がありました。当日の参加者は12名で、多くの方が研修に参加されました。

はじめに池田さんや高杉さんから研修の意義や当日の流れをお話して頂き、参加者同士の軽い自己紹介が行われました。尚、この研修会は埼玉県民の森を管理されている埼玉県農林公社森林局との共催で実施されるとのことでした。

午前中はキノコ採集でした。管理事務所から徒歩5分程度の場所に移動して、参加者は2班に分かれて、尾根を境に、それぞれの斜面に生えているキノコを採集しました。土から生えているキノコ、腐った木から生えているキノコ、少し日陰になった場所に生えているキノコ等々、様々な場所からキノコが生えていました。宝探しをしている様で、とても楽しかったです。採取したキノコは新聞紙にくるみ、ビニール袋の中に入れました。キノコを見つけたら、まずは生えている自然な状態で写真を撮り、その後、つぼを傷つけないように根元の深い部分から掘り起こし、かさの表裏とつぼ、つぼを撮影すると良いと教えて頂きました。



午後はキノコの同定でした。長机を並べ、その上に新聞紙を敷き、採集したキノコを置きました。机の上には色、形が様々なキノコが置かれました。ピンク色のキノコ、柄が針金のように細いキノコ、傘の裏のヒダに傷を付けると白い液を滴らせるキノコ等々、どのキノコもユニークな特徴を持っており、その多様さに驚かされました。



机に並べられたキノコと各自が持参した図鑑を照らし合わせて、同定作業が行われました。同定されたキノコは名前の書かれた白紙の上に置かれました。同定が難しいキノコは持ちよった図鑑を見比べて同定にあたりました。最終的には採集したキノコの内、2/3程度にあたる35種類のキノコを同定できました。

私が特に印象に残ったのがムラサキアブラシメジモドキとオオゴムタケでした。ムラサキアブラシメジモドキの傘は鮮やかな紫色でとても綺麗でした。オオゴムタケは黒く、プリンを逆さまにした形で、触ると弾力がありました。ナイフで割ってみると、ゼラチン質の物体が詰まっていました。

今回の研修会を通して、キノコの魅力や同定の楽しさ・難しさを知りました。魅力的な研修を企画して下さった高杉様、一緒に研修会に参加された皆様、森林局の皆様、そして研修の材料になってくれたキノコ達に感謝いたします。

